

平成30年度 研修会

「認知症ケアの理解と求められるケア人材」

いま理解すべき認知症ケアの在り方と、我々が目指すべき専門職としての存在意義を考える。

- 日時：2月19日(火)13:30～16:00
- 場所：山口県セミナーパーク
- 講師：認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤 伸司 氏

※ 認知症ケア専門士単位 2単位が取得できます。



岩国・柳井

高齢者の良く飲まれる薬、 認知症の方の薬について

- 日時：1月21日(月)13:30～15:00
- 場所：しまとびあスカイセンター
- 講師：株式会社アクロス

代表取締役 松原 隆 様

下関・萩・長門

ブロック会議

- 日時：1月22日(火)10:00～12:00
- 場所：下関ふれあい会館 “あぶにーる”
- 内容：災害時協定作成に向けた会議

※ イベントお問い合わせ先

TEL 090-8998-8977 (事務局 近藤)

光・下松・周南

施設見学、事例検討会、 クリスタルボウル演奏会

- 日時：2月25日(月)14:30～16:00
- 場所：周南市菊川公民館加見分館

※ 見学先：グループホーム万年青

※ クリスタルボウルとは水晶でできた楽器

防府・山口

施設見学、コーチング研修会

- 日時：3月4日(月)
 - 場所：ソルトアリーナ
 - 講師：ニコニコ創 施設長 古城 琢也
- ※ 見学先：グループホームニコニコ創

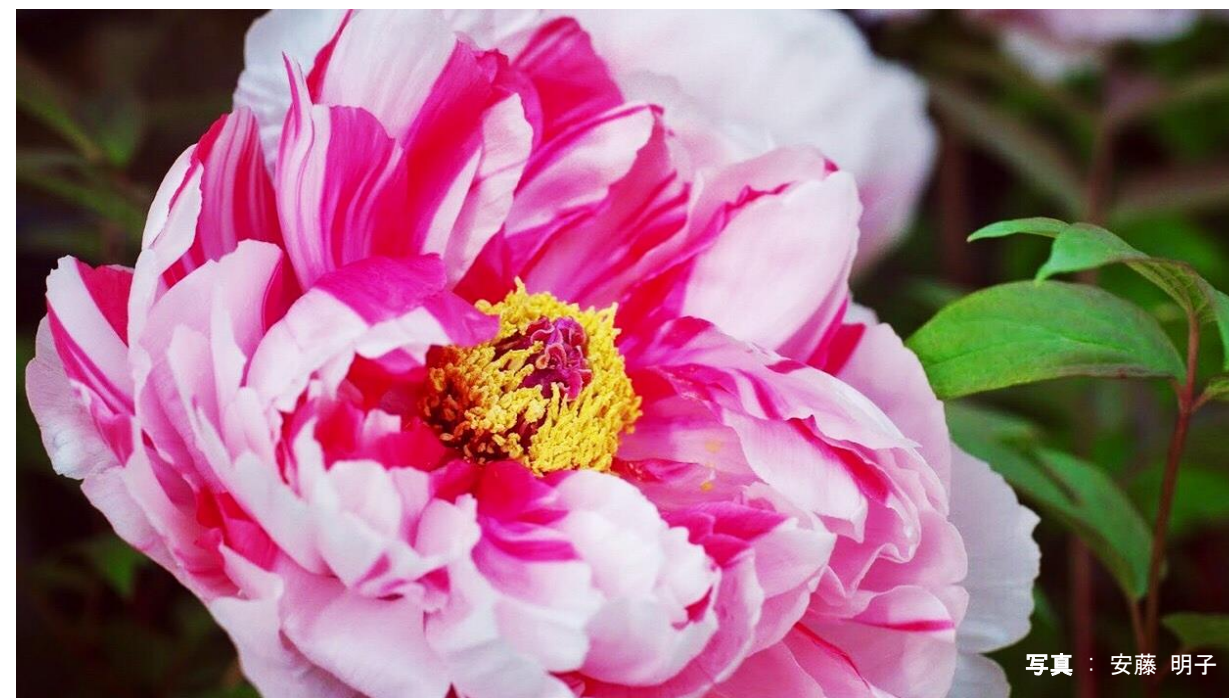
数字からみる山口県GH協会

(平成31年1月現在)

正会員 118 事業所

個人会員数 14名 / 賛助会員数 3団体

- ※ 「山口県GH協通信」についての意見や提案があれば教えてください。記事の提供も大歓迎です。何とぞよろしくお願いいたします。
- ※ 本会の活動は、ホームページ・FBページからも確認できます。



写真：安藤 明子

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

新年を迎え会員の皆様のご多幸をお祈りしますと共に、本年も当協会を宜しくお願い致します。

私は昨年6月に当協会の会長に就任しました。初年度は、私のホームのエリアで人災による断水により秋の協会のイベント等に参加する事が出来なくて申し訳ございませんでした。

しかしながら、会員の皆様・副会長・専門部長・理事さんの協力を得て昨年一年間の行事を無事終える事が出来ました。ありがとうございました。昨年は山口県内も西日本豪雨にみまわれ、災害時の対応等に考えさせられる一年でしたが、本協会では今後災害時に会員の皆様の事業所にどのような支援・協力が出来るかをブロック別に検討・実践しながら協会内の災害協定の実現を目指して行きたいと思っております。災害以外にも、グループホームに携わる会員の皆様には経営・サービス提供の場におかれまして様々ご苦勞や問題があると思っております。

当協会が、この様々問題を身近な所から一つ一つ解決出来るお手伝い出来る協会づくりを目指して今年一年頑張りたいと思っております。今後とも当協会をよろしくお願い致します。



平成31年 元旦

一般社団法人

山口県宅老所・グループホーム協会

会長 山本 隆之



災害・人災 ～周防大島町の断水の経験を経て～

災害には、自然災害や人的な災害(人過失・事故・テロリスト)などの災害があります。当たり前のことですが、災害はある日突然にやってきます。被災される地域の人々は、私やこの地域が、まさか災害に巻き込まれると思って生活はされていないでしょう。それどころか自分の所は大丈夫と、具体的な対応策まではと言う方が多いと思います。皆さんも、防災訓練・緊急連絡網の整備・保存食の確保等の災害に対する備えをされていると思います。大変重要な事だと思いますが、やはり基本的な対応策を理解しないと、臨機応変な対応は出来ません。

災害の大変さは、災害発生から被災の状態により数日・数か月・数年と影響を及ぼします。ここまでの対応となると、なかなか想像も付きにくいのではないのでしょうか。東北震災など、地球規模と言われる災害までの対応は無理としても、昨年の周防大島町の断水・交通に関わる状態に対しては、何かしらの対応策があるのではないかと考えます。周防大島町は昨年の始めに水道管の老朽化での水漏れで大島全土が数日断水した事がありました。この経験から8ヶ月が経ちましたが、目に見える対応策は取れていませんでした。数年前から東南海地震の対応の呼びかけ・防災センターの建築等を進めていましたが、今回の断水に役立ったとは思えません。



会員事業所に水を届けた時の様子

断水による影響(飲用水のみの配達)

- ① 調理がままならない
- ② 食器を洗えない
- ③ 洗わなくて済む紙皿・紙コップの不足
- ④ 入浴が出来ない
- ⑤ 洗濯ができない
- ⑥ ミネラルウォーターの確保が出来ない
- ⑦ トイレの使用の不便さ
- ⑧ 清潔を保つための手洗いが十分出来ない
- ⑨ ポリタンクや水道関係の物資の不足などの日常生活に必要な事が出来ない不便さ

交通(大島大橋の通行規制)について

- ① 職員が出勤出来ない
- ② 職員が帰れない
- ③ 上記二つに伴い地元職員への負担
- ④ 入居者様の救急搬送(島内の病院で対応出来ない場合)不安
- ⑤ 当初は島外の温泉施設を入浴場所として開放されたが、橋の通行は渋滞や通行止めにより不可能

上記では大変だった事をのべましたが、町役場の福祉関連の職員さんが休みを返上して、水を施設へ配達(制限あり)していただいたのは助かりました。その一方で、ほぼ影響を受けていない人達もいました。ボーリングをして、自施設だけ水を確保出来ている施設もありました。私の施設では停電に対しての対応はしていましたが、水の確保については過去の台風等の被害を経験から、大丈夫だと思いついていました。何よりも、職員の一人一人が職場での不便さ・疲労が自宅へ帰っても続く事に対する疲労は大変だと感じました。「もう無理です。疲れました。」と仕事を辞めたいと言う職員がいたくらいです。これらの経験を経て、地域単位・施設単位また職員さんの目線で災害対策を考えていければと

思っております。そして、当協会がそのお手伝いをするつもりです。

災害時に大切だと思った事

- ① 地域住民との情報交換が出来る環境
井戸水等の情報・利用
- ② 協会ブロック内での日頃のお付き合い
経営者だけではなく職員同士の方が現場目線で相談しあえる関係性
- ③ 職員あつての利用者様へのお世話
職員一人一人災害で困っている事は違います。そのケアが大切です。
- ④ 施設で一時的な事は対応出来る設備
発電機・ボーリングによる水の確保・保存食や電気を使わない調理器具など
- ⑤ 災害地域外からの支援を受けられる体制
(気持ちが落ち着く)
- ⑥ 公的な所からの支援を受けられないケースを想定しての独自のマニュアル作り
- ⑦ 便利なものに頼らない生活の知恵・工夫

上記の事を踏まえた上で地域災害協定が出来る事が望ましいですが、まずは現実的に困る事を想定した上で、対応を自施設で考え実行し、困った施設等に提供できれば良いと思います。持ちつ持たれつの気持ちが、災害時にはハード面にもソフト面にも役に立つと感じました。

各施設で考え、他施設と集まって考え、災害について考え抜いて意見交換をする場所で、良い協定・暗黙の協定(信頼関係)が生まれると考えています。これを機会に、様々なしがらみを取り払った災害対策が出来ると嬉しいです。災害で被災するという事は生命にも関わる非常事態と言う事を忘れずに、共に地域災害協定の作成に取り組んでいきましょう。

(山本隆之)

ブロック活動報告

【防府・山口/光・下松・周南/
宇部・山陽小野田・美祢】
グループホーム弁論大会

- 日時：H30年11月16日
- 場所：ルルス防府



【岩国・柳井】施設見学&情報交換会

- 日時：H30年8月24日
- 場所：おげんきハグニティ(施設見学)
瀬戸内荘やまもと

【下関・萩・長門】施設見学会

- 日時：H30年9月13日
- 場所：グループホームオアシスはぎ園



【光・下松・周南】防災対策学習会

- 日時：H30年9月27日
- 場所：白鳩老人グループホーム

※ こちらで紹介した活動は、実際に行った活動の中のほんの一部です。